



大阪府立中央図書館だより

はるみや

1996.9 創刊号



中央図書館の 開館にあたって

館長 松本進一



明治37年「大阪図書館」として開館して以来、93年に及ぶ歴史を有する大阪府立図書館は、昭和25年「天王寺分館」を開館し、その後昭和49年にそれぞれ「中之島図書館」・「夕陽丘図書館」と改称し、現在に至るまで多くの府民に愛され親しまれてきました。

そして平成8年5月10日、生涯学習と高度情報化社会にふさわしい総合的な図書館サービスを目指して、ここ東大阪新都心の地に、全国自治体で最大規模の中央図書館が開館のはこびとなりました。

この中央図書館の設立については、昭和56年に学識経験者や文化人などで構成する大阪府文化問題懇話会で「文化・学術の拠点となる図書館整備を進める必要がある」と提言されたのを受け、平成元年に建設の骨子となる基本計画が報告され、その後平成4年度から約3年の工事期間を経て今日を迎えたもので、この間の数多くの関係者各位の

御努力に対し深く敬意を表するとともに心から感謝申し上げる次第であります。

図書館は「真理がわれらを自由にするという確信に立って憲法の誓約する日本の民主化と世界の平和とに寄与することを使命とする（国立国会図書館法前文）」の理念のもとに、人々が本来有する知的欲求を満たし、それが過去の歴史に学ぶものであれ、未来への探求であれ各人の生涯を通じて自己実現を目指す生涯学習を進める上で最も基本的な施設であります。

私達は今21世紀を目前にして、中之島・夕陽丘両図書館の歴史と伝統を受け継ぎ、未来を展望しながら先人の労苦を生かした図書館運営に努め、学に志し知識を求める府民の皆様に愛され、親しまれ、十分なご活用がいただけますよう心から願っております。

館報のタイトル「はるみや（春宮）」は、この図書館用地が府営春宮住宅の建替えに伴い生み出されたものであり、この地区の氏神で奈良の春日大社、当市の枚岡神社と関係のある「春日若宮神社」の「春」と「宮」をとり、地元の人々に呼称されている名称であります。

明るく伸びやかなこの言葉は、インターネットの時代においても世界に通ずる語感を有するものとして、新たな100年のスタートにふさわしいものと信じております。

